

徳島工業短期大学同窓会会報

No.29

特別号

令和8年3月1日
発行

No.29号をもちまして、同窓会報は紙媒体での発行を中止し、来年度より、ホームページ上でご覧いただくこととなりました。大学の取り組みや、学園祭などのイベント情報も発信しておりますので、ぜひご覧ください。

T-COT Alumni Association MEMORY



沖縄地区同窓会 集合写真
(H12. 9. 8)



30周年記念パーティー
(H15. 8. 24)



同窓会会報バックナンバー (No.1~28)



香川地区同窓会 集合写真
(H21. 10. 3)



40周年記念同窓会
(H25. 9. 1)



50周年記念同窓会
(R5. 10. 23)



ご挨拶

第1回生 (昭和50年卒) 同窓会会長 黒口 浩二

皆さんご無沙汰しております会長の黒口です。

会長に就任してはや43年余り、後継者が出てこないためそのまま続投しています。私が卒業した半世紀前には自動車は一般的にガソリンとジーゼルエンジンしかありませんでした。(趣味や研究、その他限定的には電気等も一部ではありましたが) ですから昔の整備士は今よりも簡単といえないこともないと思います。現在またこれからの整備士はガソリン・ジーゼル・ハイブリッド・プラグインハイブリッド・電気・水素・これから出てくるかもしれない物に対応する必要があるので大変ですね。私は早めにリタイヤして良かったです(笑)

徳島工業短期大学同窓会の現状としては継続的な入学者数の減少による同窓会の運営費の減少、および物価高騰による経費の増大などにより役員のご負担を増やしての活動方法をとっていましたが、一層の経費削減のため紙による同窓会報の発行を止め、時代はデジタル化ということで同窓会報も短大のホームページから閲覧できるようにしています。

昭和59年3月に同窓会報の第1号を発行してから今回の第29号で紙としての同窓会報の発行は終了いたします。これからは同窓会の活動としては、これまで通り年1回の地区会の開催及び同窓会報のweb上での発行を続けていきます。

同窓会としては設立の目的である卒業生の相互の交流を図るためには何が出来るか?をこれからも推し進めていきます。そのための良い案、意見がありましたら同窓会事務局まで連絡をお願いします。



同窓会報廃止について

第4回生 (昭和53年卒) 同窓会副会長 大野 秀人

本校に於いての近況報告及び地区別同窓会実施に当たっての報告等を記載させて頂いていました。また、地区別同窓会参加者の参加にあたっての感想・近況報告・現状についての意見等を頂き記載させて頂きありがとうございます。

近年の流れで同窓会報を、インターネットにより配信させて頂くようになりますが、閲覧のほど宜しくお願いします。

最後になりますが、今後も同窓会員皆様方の情報・記事を提供して頂き、会報に載せることにより皆様方に伝えられるようにしたいと思います。



同窓会報のペーパーレス化に寄せて

第20回生 (平成6年卒) 同窓会副会長 足田 浩二

このたび同窓会では、環境への配慮および事務作業の効率化を目的として、同窓会開催のご案内や各種お知らせを、従来の郵送によるご案内から、電子メールやウェブを活用した「ペーパーレス化」へ移行することといたしました。これにより、最新の情報をより迅速にお届けできるとともに、限りある資源の有効活用にもつながるものと考えております。

皆様にはご不便やご不安をおかけすることもあるかと存じますが、本取り組みの趣旨をご理解いただき、何卒ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

今後とも同窓会活動への変わらぬご支援をお願い申し上げます。



ご挨拶

理事長 和田 博文

本学は令和5年に創立50周年を迎え、私はその節目となる年の1月1日より理事長職を拝命いたしました。この間、同窓会の皆様のご支援とご協力により、大学改革を着実に進めることができいております。心より感謝申し上げます。

本学は創始者の理念を尊重しつつ、「守るべきものは守り、変えるべきものは変える」という理念を礎に、進取の精神をもって教育と研究の高度化に邁進しております。令和8年度には新実習棟の利用を開始し、高度化する自動車技術に対応した教育体制を整備するとともに、将来的には専攻科の定員数を現在の5名から20名へと拡充する計画です。

また、地域社会との連携強化にも力を注いでおります。災害時の避難所としての板野町との協定締結、ふるさと納税返礼品として提供しているT型フォード乗車体験は大変好評をいただいております。さらに、学生3名が地域消防団に登録し、防災活動に貢献するなど、地域に根ざした取り組みを進めております。これらの活動を通じ、地域に信頼され、必要とされる大学であり続けることを目指しております。

加えて、寄付金募集にも積極的に取り組み、寄付者の皆様にとって利便性の高い税額控除制度の導入を進めております。教育・技術のさらなる向上を図り、地域と共に発展する大学を築いてまいりますので、引き続き皆様のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

さらに、卒業生の皆様には、新実習棟をぜひご覧いただきたいと考えております。今の学生と交流し、社会で培われた経験を学びの場に還元していただければ幸いです。また、本年も10月18日(日)には学園祭を開催いたしますので、ぜひ足をお運びいただき、懐かしいキャンパスで楽しいひとときをお過ごしください。



ご挨拶

学長 多田 博夫

同窓生の皆さま、こんにちは。私は令和2年4月に本学へ赴任し、翌年より学長を務めております。実は私と本学とのご縁はもっと古く、平成9年に佐藤先生と親しくなり、翌年からは四国EVラリーに参加して多田好宏先生や吉田先生、沢山の学生の皆さんと汗を流した思い出があります。私は電動バイクでの参戦でしたが、本学はプレリウドEVやセリカEVでした。

私自身、車を選ぶ基準は世間の評判ではなく自分の判断であり、マイナーな小型のイタ車に乗る私に当時の学長であった宮城先生から「うちに来ないか」と声をかけていただいたことが、今につながる運命的な出会いとなりました。赴任後は自動車部の活動にも参加し、多くの卒業生と交流できたことを心から嬉しく思っています。

同窓生の皆さまからは、「昔は車好きのヤンチャな若者が全国から集まり、キャンパスがあふれんばかりだった」と聞かされました。県外からも多くの学生が押し寄せ、本学の勢いそのものが自動車の若者文化であった時代です。しかし現在では県外からの入学者は減少し、地元の専門学校へ進む若者が増えていることから、少し寂しさを感じるのも事実です。

そのような状況の中で、本学は短期大学として専門学校にはない魅力を追求しています。東南アジアからの留学生がもたらす多様性は、学生や地域に新たな視点を与え、学びを豊かにしてくれます。そして今、私たちは短期大学だからこそできる整備士育成を本格的に進めようとしています。

本学の卒業生には多くの社長がいます。地域には專業整備工場も多く、技術があれば起業も事業承継も可能です。そこに「鬼に金棒」となる新たな力——経営の視点や創造的な発想——を加えられる人材を育てることが、短期大学としての本学の使命になると考えています。

これからも本学は「ここにしかない学び」を磨き続け、新しい時代に必要とされる整備士を育ててまいります。同窓生の皆様には、変わらぬご支援と温かい応援を心よりお願い申し上げます。

新実習棟完成

今年度、本学では教育環境のさらなる充実を目的として、実習棟5号館および6号館の改修・再整備を行いました。5号館があった場所は、新たに「T-COTテラス」として整備され、学生同士や来学者が集い、イベントや交流が生まれる開放的なエリアへと生まれ変わりました。また、6号館は新たに建て替えられ、より実践的で安全性の高い実習が可能な施設として活用されています。時代に即した学びの場づくりを進めることで、学生が誇りを持って学べる環境整備を進めています。



新実習棟 6号館



EV・HV 実習場



点検・検査 実習場

地区同窓会報告



中国地区同窓会に参加して

第22回生（平成8年卒） 鬼山 昌典

同窓生のみなさま、こんにちは。

私は第22期卒業生の鬼山昌典と申します。平成8年に卒業後、出身地の岡山で就職いたしまして現在まで岡山市内に在住しております。中国地区同窓会にて岡山県支部役員を仰せつかっております。

さて、本年11月15日、令和7年度中国地区同窓会がピュアリティまきび（岡山市北区）にて開催されました。今回はその様子を皆さまにお伝えしたいと思います。

役員含め28名の方々にご参加いただきましたが、古くは第1期生から前年度に卒業したての第51期生までと幅広い世代の方々にお集まりいただくことができました。

本同窓会が前回開催されましたのは平成26年と今から11年前のことになります。私事ですが、私は当時いち同窓生として同期数人と参加させて頂きました。ところがこの度はご縁がありまして司会進行という大役を仰せつかってしまい、肝を冷やしながらの参加と相成りました。

更にお恥ずかしい話ではありますが、一人で同窓会に参加するのは寂しいと思い、同じ県内に住む同期を誘い、一緒に参加することにしておりました。しかし、頼みの綱の同期が体調不良で急遽欠席となり、知り合いが誰もいない中でまさかの単独しかも司会での参加となってしまったのです。同じテーブルに座る全員初対面の卒業生の皆さんと、はたして会話が弾むだろうかと不安になり、同窓会を楽しめるのかと若干心細さを覚えながら当日を迎えました。会場に到着して名簿を見ましても、同期と一緒に参加されている方たちも多く、これは孤独を感じる同窓会になるなど覚悟して受付を済ませました。

定刻どおりに開会を迎え、まず初めに、第1期生である黒口会長よりご挨拶を頂戴し、前回の同窓会の様子や徳島工短の昔話などお話し頂きました。続いて新任の和田理事長からは就任されたいきさつや学校における現状についてお伺いすることができました。そして乾杯の頃合いとなり、第3期生でもある多田先生によるご挨拶と乾杯のご発声で和やかに会が始まりました。

乾杯後の歓談の時間に入り、私も食事をとるために司会席からテーブル席に移動しました。席は自由でしたので、各々卒業年度は問わず席についておられます。ふと気が付くと祖父と孫ほど年の離れたメンバーたちで和気あいあいと酒を酌み交わしておられるではありませんか！

「昔の寮の部屋は刑務所の独房みたいだった。食堂には自分の部屋から皿を持ち込んでいた」「自分の車やバイクをどういった改造をしていたか。朝、徳島工短生の不法改造車両を取り締まるために、正門の影に白バイが隠れているのを見つけたら学校の前を素通りして、2時間目の授業の時間に登校していた」「鳴門公園や鳴門スカイラインでクラッシュした」「大坂峠は攻められる道端じゃなくガッカリした」「板野看護学校生と付き合っていた。徳島文理や四国大学の女子学生には、徳島工短では相手にされなかった」「徳島駅前での何処で巡回とナンパをしていたか」「新しく建築された寮の角部屋はWi-Fiが届きにくい」等々、大きな声では語れないような内容の、しかしながら、徳島工短生あるある話で大盛り上がりです。あっという間に私もその会話の中に入り込み、時を忘れてみなさんと楽しくお話をさせてもらいました。

車やバイクが好きという同じ共通項があり、徳島工短を卒業した今でも徳島工短を愛し、卒業したことに誇りを持っている者同士が集まって酒を酌み交わすのですから、盛り上がりがないわけがありませんでした。私の当初の心配など杞憂以外のなにものでもありませんでした。

会の中盤では、参加者全員が一人ずつ登壇し自己紹介と近況報告を行いました。その話を聞いて、共通項がある方など別テーブルの卒業生の皆さんともその後話に花が咲き、親睦を深めることが出来ました。久しぶりに懐かしい時代を思い出して時が経つのも忘れるような幸せな時間でした。

ところで、学校の近況を聞いていて大変驚いたのですが、近年は在学生の内、外国人留学生の占める割合が4割近くになっているのだそうです。私たちの時では考えられないことで時代の流れを感じずにはられませんでした。

そして皆さん！昔の徳島工短は徳島市内にある徳島文理と川を挟んで反対側（徳島市南昭和町）に学校があったこと、なぜ徳島工短が移転することになったのか、なぜ移転先が板野町だったのかという理由をご存じでいらっしゃいましたか？私はこの度初めてその話を聞きまして驚愕の事実のけ反ってしまいました。その理由をお知りになりたい方、是非とも各地で開催されております徳島工短の地区同窓会に足をお運びいただきましてお話を聞いていただき、共に驚いていただければと思います！と、それだけではありませんが、ぜひ同窓会にご参加いただき、昔話に花を咲かせながら旧交を温め、楽しいひと時をお過ごしいただければ幸いです。

さてここで、大学よりお願いしたいことがございます。

お知り合いの方のご家族に高校生の方がおられましたら、進路として徳島工短も視野に入れていただけるようお話いただけませんか。本学をご卒業の皆さまだからこそ、大学の魅力を余すところなくお伝えいただけると思いますし、それこそが、最良で最強の広報ではないでしょうか。是非とも、定期的に大学から郵送されてくる徳島工短の情報をもとに、学校の魅力をお伝えし、入学へのお声掛けをして頂けませんでしょうか。また、皆さんの職場の方に徳島工短のパフレットを置いてくださる方も募集しておりますので、こちらにつきましてもどうぞご協力のほど宜しくお願いいたします。

末尾になりますが、徳島工業短期大学の現学生及び全職員の皆さまと徳島工業短期大学を卒業された皆さまの、益々のご繁栄とご健勝を祈念いたしまして筆を置かせていただきます。ありがとうございました。

令和7年11月15日 岡山市北区「ピュアリティまきび」にて、 令和7年度中国地区同窓会 を開催しました。



2025(R7年) 11月15日 ピュアリティまきび



本学の近況とこれから
—母校は、次のステージへ—

第21回生（平成7年卒）教授 助道 永次

本学は、時代の変化に対応しながらも、「現場で信頼される自動車整備士を育てる」という原点を大切に、これからも歩み続けます。卒業生の皆様には、今後とも温かいご支援とご助言を賜るとともに、ぜひ折に触れて母校へ足をお運びください。皆様と再びお会いできる日を、教職員一同、心より楽しみにしております。

大学の取り組み

(広報関係)

3年前には創立50周年記念事業を実施し、多くの卒業生ならびに関係者の皆様にご参加いただきました。この節目の年には、各種メディアや広報媒体にも取り上げられ、本学の取り組みや教育内容を広く社会に発信する貴重な機会となりました。

また、毎年10月に開催している学園祭は、本学の大きな恒例行事として定着しており、次年度も盛大に開催する予定です。あわせて同日に実施している「ホームカミングデー」では、卒業生の皆様に母校にお迎えし、懐かしい仲間や教職員との再会の場として、毎年ご好評をいただいております。校舎や設備の変化、学生たちの活気ある姿を、ぜひ実際にご覧いただければ幸いです。

近年、オープンキャンパスへの参加者は増加しており、本学への関心の高まりを実感しております。このオープンキャンパスにつきましては、内容や実施方法の見直しを重ね、より本学の特色や学びの魅力が伝わるよう、継続的な改善に取り組んでおります。

さらに、将来の進路選択を見据えた取り組みとして、小学生・中学生を対象とした啓発活動も継続的に実施しております。自動車整備という仕事の魅力や社会的役割を、早い段階から知ってもらうことを目的としています。

加えて、新たな取り組みとして、幅広い年齢層の方々に本学を知っていただくため、ラジオ番組への出演を開始いたしました。本学の教職員や在学生が出演するコーナーを設け、月2回程度、1回約15分の番組として放送しております。本学の日常や教育内容、学生の声などを発信することで、地域に根ざした学校としての認知向上を図っております。

(地域連携関係)

企業との連携強化も本学の大きな特徴の一つです。企業奨学金制度の提携企業は年々増加し、現在では県内外38社と契約を結んでいます。学生にとっては経済的支援に加え、将来を見据えた学びや就職への安心感につながっており、企業・大学・学生がともに成長できる関係づくりを進めています。



四国放送 ラジオ大福「T-COT へ行こう」と
隔週火曜日 10時10分から放送

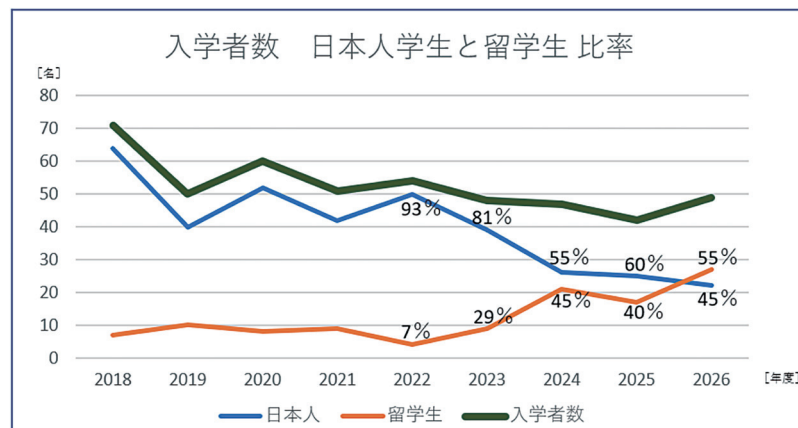
好きをスキルに

T→COT

TOKUSHIMA
COLLEGE OF TECHNOLOGY

大学の現状

本学は、自動車整備士養成を担う短期大学として、創立以来、数多くの卒業生を自動車業界へ送り出してまいりました。近年は18歳人口の減少等の影響もあり、学生数は30年前と比較して約半数まで減少しておりますが、時代の変化に対応すべく、教育環境および教育内容の充実に継続して取り組んでいます。現在の本学は、多様な背景を持つ学生が共に学ぶ環境へと広がりを見せています。留学生を含め、多文化が交わる学びの場の中で、現場で通用する技術力と、人として信頼される整備士の育成に力を注いでいます。こうした環境は、卒業後に国内外の現場で活躍するための大きな強みとなっております(例:メーカーや国を問わず対応できる基礎的な整備技術と安全意識)。



入学者数推移、日本人学生と留学生比率



多文化共生を体感できる学習環境

★ 教職員の異動

退職	四宮 義則 (特任講師)	令和7年3月31日付
	久米香央里 (事務職員)	令和7年3月31日付
	岩瀬 一裕 (教授)	令和7年8月31日付
	妹尾 瞳 (講師)	令和7年9月30日付
新任	後藤 靖司 (教授)	令和7年4月1日付
	宮本 明 (事務職員)	令和7年7月1日付
	藤田 紗衣 (助教)	令和8年1月6日付
	徳田 梨花 (事務職員)	令和8年2月1日付

編集・発行 徳島工業短期大学同窓会会報編集委員会
TEL (代)088(672)2311・(直)088(672)3084
令和8年3月1日発行